

電子書籍化の未来は来る？ 浜医スマート・ライブラリ構想



シンポジウム

「大学図書館蔵書の電子書籍化の未来を語ろう」

(平成30年度 国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業)

平成30年9月20日

伊原 尚子(浜松医科大学 学術情報課長)

浜松医科大学の概要



【大学について】

建学 昭和49年 (創立44年)

医学部 医学科・看護学科

大学院 医学系研究科(医学専攻・光医工学共同専攻・看護学専攻)

連合小児発達学研究科[浜松校]

学生数 学部生 993名 大学院生266名

教職員 教職員数 1,790名(医員、研修医等を含む)

建学の理念

第1に優れた**臨床医**と独創力に富む**研究者**を養成し、
第2に**独創的研究**並びに新しい**医療技術の開発**を推進し、
第3に**患者第一主義の診療**を実践して**地域医療の中核的役割**を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

附属図書館の概要



【附属図書館について】

(平成29年度)

蔵書数 54,212冊 年間受入冊数 1,999冊

所蔵雑誌種類数 1,981種類 年間受入雑誌種類数 286種

入館者数 100,944人(延べ人数)

貸出総数 7,749点

面積 1,757㎡ 座席数 233席

経常経費 112,116(千円)

うち 図書購入費 5,260(千円)

電子ジャーナル等購入費 69,722(千円)

職員

常勤職員5名 非常勤職員 7名

「国際化統括部門設置準備室」の事務も担当(平成29年11月より)

24時間開館を実施

スマート・ライブラリ将来構想

現代にマッチし、世界に必要とされる医療人育成のために

浜医スマート・ライブラリ Smart Library

紙媒体から電子媒体へ

～従来型図書館からSociety 5.0型図書館へ～

自律的な修学のための支援

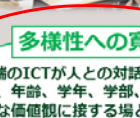
- 効率的に必要な情報を活用できる電子資料(Digital Contents)の選択収集
- e-learning contentsの作成・供給
- 動画教材やVirtual reality教材を活用した最新医療の習得の支援

ICTを活用した双方向コミュニケーション

- 海外学生との対話による相互理解
- 国際PBL等の双方向対話学修
- 国際感覚とコミュニケーション能力の涵養

人間形成を促す学修空間

- 個人学修とグループ学修の深化のために静から動へ幅のある空間整備
- 自在に利用できるICT機器の整備



相互の
独自性を
補完

教育資源の共有と連携

- 学部・学年を超えた教材、人材の共有
- e-learning contentsの自由な利用
- 遠隔講義への参加



連携による効果

- 自律的な学修能力と応用能力の涵養
- 豊かな人間性と高い倫理観の涵養
- 多角的な学問見地と社会的基盤の確立
- 独自性の認識と多様性の寛容
- 異分野の理解による共同研究機運の育成
- 新たな学術領域を創造する基盤の育成

多様性への寛容

先進のICTが人との対話を生み、性別、年齢、学年、学部、文化を超えて多様な価値観に接する場となる。

良き医療人の育成



構想の背景



図書館の改修計画

- キャンパスマスタープランの構想の軸に環境改善、リノベーション
- ・H25にラーニング・commonsは整備済み
- ・第3期中期目標に40席の増席を記載
- ・書架占有率が90%を超え、空調の不備によるカビの大量発生

学長主導の図書館改革

- 図書館をスマート・ライブラリに
- ・Society5.0型の図書館を目指す
- ・スマホ世代の学生の学修行動の変化
- ・古い図書は弊害(古い医療知識は不要)

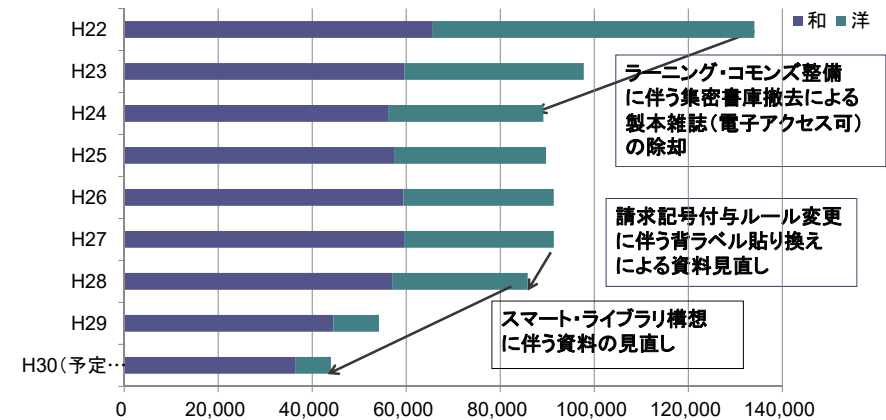
紙媒体からの脱却

県内の国立大学との連携

- 独自性の確立と教育資源の共有

5

蔵書数の変遷



スマート・ライブラリ構想に伴い、
製本雑誌の70%、図書の30%を除却(予定)

6

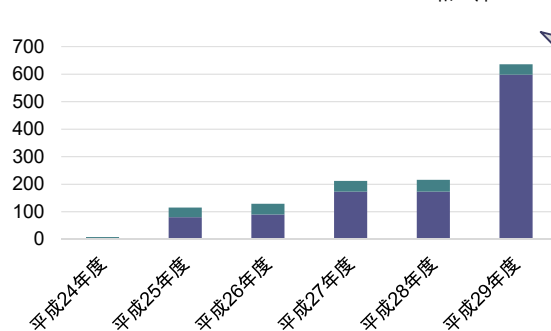
電子資料の計画購入



電子資料の計画購入

- 継続的な予算要求が必要
- 蔵書の再構築(分野等)

電子書籍所蔵数



紙資料に代わる
新たな資料の
必要性を訴える
チャンス到来

H29に520万円
電子書籍購入

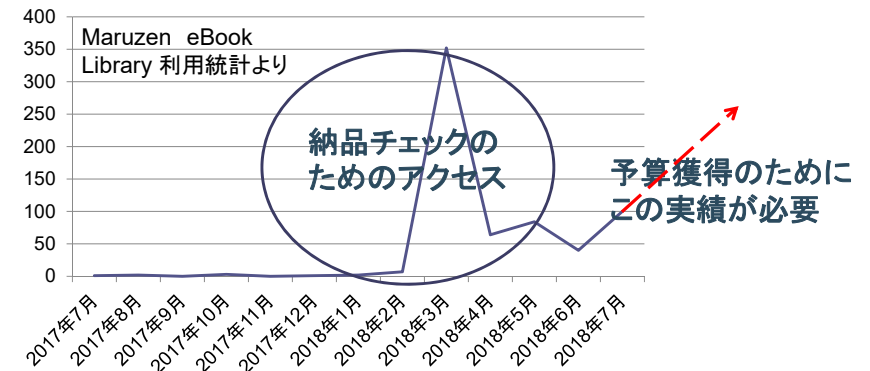
H30に3000万円
分の買いたい
リスト作成
(要求)

7

利用を促進するためには？



そもそも、電子書籍は利用されているのか？



- ・電子書籍利用の土壌づくり→ 確実に使ってもらえる資料の選定
- ・学修行動の把握 → タブレット? スマホ? 使い方調査
- ・見える化の工夫

8

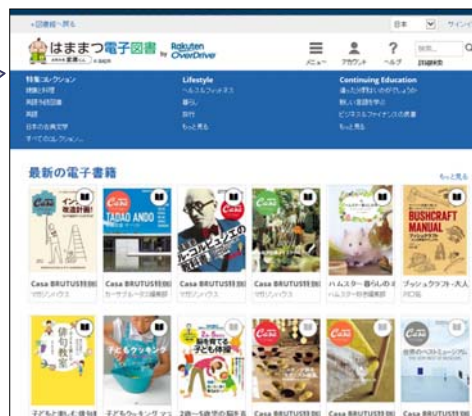
地域の情報資産の活用



浜松市立図書館との連携

利用者カード作成、電子書籍ID配布、利用説明会の実施

多読資料の利用
講演/講習会の実施
除却資料の譲渡



9

電子書籍の可能性(医学部編)



- ・医学部の学生は自分の本を大量に持ち歩く
→ 電子書籍なら、持ち歩きラクラク
- ・研修中の臨床現場で、急な調べもの！！
→ 病院内からタブレットで確認
- ・手術の手技等は電子書籍内の動画で確認
→ 手順書や写真よりもわかりやすい！！

可能性は無限大→これぞスマート・ライブラリ

10

出版社の方へ



学術書籍の
電子書籍の出版
モデルをともに
考えましょう

共通・統一の
プラットフォーム
があると、うれしい
です。

版次の古いものは電子化されても不要です。
(医学分野)

でも、他の分野はアーカイブ機能への期待もあるかな？

書籍の枠を超えた新しい何かを
一緒に作っていきましょう！！！！

11

本学の場合は...



単科医大だからこそその挑戦

- ・黒歴史に名前を刻む覚悟で→大学の目指す光ある未来
- ・あくまでも「構想」→何も実現できていないのが現状
- ・とはいえ、本を除却してしまったので、もう後戻りはできない。
- ・何をすべきか。大学の方向性にそって考える。
- ・**図書館飛躍のための千載一遇のチャンス**

附属図書館長のあいさつより抜粋

欧米の数百年の歴史を誇る図書館では、そこにいるだけで「知の拠点」としての威厳と存在感を感じることができます。存在そのものが「知識」と「知恵」を与えてくれるのです。

たかだか四十有余年とは言え、先達が残してくれた貴重な図書を手放すのは大変心苦しい限りです。引き換えに確保したスペースに展開した「議論」の場で、新しい世代が新しい感性で「知の拠点」の足跡と息吹を感じ、「智を愛し希求」してくれることを願います。

12